

学校だより

学校だより3月号
令和8年2月27日
発行者 外日角小学校
TEL 283-0040

～1年の成長と“感謝”の心～

校長 板井 雅春

日一日と暖かな日差しに春の訪れを感じる頃となりました。6年生を送る会を終え、6年生は卒業が間近であることを実感し、残り少ない小学校生活を一日一日大切に過ごしています。また、最高学年を引き継ぐ5年生のたくましさも随所に見られます。



一年のまとめとなる3月は、自らの成長を互いに認め合い、成長を支えてくれた方々への感謝の気持ちを表す時期です。2月に開催されたミラノ・コルティナオリンピックでは、連日のように日本選手の活躍が報道されました。素晴らしい成績を収めたアスリートの多くが、インタビューでまず口にしたのは「支えてくれた人々への感謝」でした。感謝の気持ちをもつことには、様々な意義があると思います。とりわけ大切なのは、自分が



周りの人々に支えられて成長していることに気付く点にあるのではないのでしょうか。そして、その気付きは、自分に関わる周りの人を大切にしようとする思い

となって、自然と行動にも表れてきます。さらに、感謝の気持ちを素直に伝えることができる人の周りには、温かな信頼関係が生まれ、更なる協力や支えを呼び、よりよい成果へとつながっていくのだと思います。私達は、日々多くの人に支えられて生活しています。しかし、そのことを当たり前と思い、つい感謝の気持ちを表すことをおろそかにしていないでしょうか。この一年を振り返り、家族をはじめ、お世話



話になった方々や出来事に対して「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えることは、心をより豊かにすることにつながるのではないかと思います。先日の「6年生を送る会」は5年生が中心となって企画・運営を行い、在校生の、6年生への感謝の気持ちがこもったすばらしい会



となりました。インフルエンザの流行もありましたが、全校児童が集まって行ったことで、在校生の思いがダイレクトに伝わり、体育館が「ありがとう」の気持ちに包まれました。保護者の皆様、リハーサル・本番へのご来校ありがとうございました。両日は、エアコンの試運転をしました。暖房の効きが十分ではありませんでしたが、会場が少し暖かく感じた

のは、一生懸命頑張る子供たちのひたむきな姿のおかげだったのではないのでしょうか。

早いもので令和7年度も、残すところあとわずかとなりました。クラスの仲間や先生方と一緒に勉強できる時間も少なくなってきました。6年生は、来週から卒業式に向けての行事や練習が始まります。たくさんの思い出ができた外日角小学校との別れ、中学生になる不安や喜び、各自が様々な思いを感じながら、卒業式を迎えるまでの間、仲間と共に生活できる時間を有意義に過ごし、1年生から5年生までの後輩達に素晴らしい外日角小学校の伝統を引き継ぎ、最後の締めくくりをしっかりと行って「有終の美」を飾って欲しいと思います。

保護者や家族の皆様、地域の皆様には日頃より、陰になり日向になりご協力とご支援をいただきました。その一つ一つが子供達の成長の糧となったことと思います。教職員一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。